



ウガンダ西部にも生息するチンパンジー。熱帯雨林を再現した展示場には10mを超える高さの木々が茂り、樹上生活を営む彼らの自然な姿を見ることができる



サバンナゾーンで見つけたマスクとネムの木。気候・地域によって8つのゾーンに分けられた園内は、文化的な意匠や植栽による演出が楽しい

**よこはま動物園ズーラシア**  
 横浜市旭区上白根町1175-1  
 開園時間:9:30~16:30(入園は16:00まで)  
 休園日:火曜(祝日の場合は開園し、翌水曜休園)、  
 12/29~1/1 \*臨時開園あり  
 TEL:045-959-1000  
<http://www.hama-midorinokyo.or.jp/zoo/zoorasia/>  
 動物展示・イベントの予定はホームページでご確認ください。



東アフリカの風景を再現した草原エリア。広々とした景色をチーターやキリンが横切り、サバンナの雰囲気を楽しめる

ウガンダから来た

もっと地球ギャラリー  
 日本で発見!

# ライオンのフラビア

写真●鈴木勝 文●大谷徹(編集部)

フラビアは「よこはま動物園ズーラシア」の人気者。2015年にウガンダからやって来た、人懐っこい雌のライオンだ。実は彼女、日本のライオンたちの未来にとってとても貴重な存在なのだ。動物園には希少な動物を保全し次の世代に伝えるという大きな使命がある。そのためには遺伝的な多様性を保っていかなければならないが、日本では長いこと海外からライオンの個体導入が行われていなかった。国内のライオンを健全に保全していくために、フラビアの血統は期待されているのだ。

来日を実現した背景には、ズーラシアを管理する(公財)横浜市緑の協会と、

ウガンダ野生生物保全教育センター(UWEC)の長年の協力関係がある。緑の協会は2008年から9年間にわたってJICAとともにUWECの保全事業に協力し、飼育から運営にいたるまで幅広い技術支援を行った。UWECの取り組みは大きく前進したという。フラビアはその取り組みの証でもある。

現在も密猟や環境破壊など、さまざまな理由からアフリカの野生動物は減少している。動物園で動物たちの魅力に触れることは、楽しいのはもちろん、彼らの保全を考える一つの大きな入り口にもなる。フラビアもきっと、多くの人たちと出会うのを待っているのではないだろうか。

